

ゾンタハウス

(山田)



ゾンタハウスの自習室で語り合う坂本未来さん(手前左)、渡辺和さん(右)、佐藤藻菜子さん(右から2人目)。「ゾンタ友」の友情は日々深まる! 山田町長崎4丁目

夢の後押しへ知恵を

「友達は津波で」「ふとした拍子に、津波でなくなった友人のことを話すことがある。大津波の爪痕は、ゾンタハウス自習室の無邪気な会話の中にも見えてくる。」

自宅や家族慣れ親しんだ街並みを奪われた子どもたちの心の傷は深い。しかし、震災が子どもたちの人生の足かせになつてはならない。

荒川心君(山田中1年)が「家より落ち着いてきた」と思つた。この地域が一体で知恵を絞りたい。

隙間埋める

「友達は津波で」「よく話すように、ゾンタハウスの自習室は子供たちの「心のよりどころ」と大切にしたい」という役割を担う。」

学級や部活動、学年、出身校を超えた交流が広がる自習室は、子どもたちにとって学校や家庭の隙間を埋める「第3の居場所」だ。

「ゾンタの友達をずっと大切にしたい」と声を弾ませる。渡辺さんは「家の方も集まることそのものが楽しんでしまうんだよ」。

「え?」佐藤藻菜子さん(同)が驚く。「もうわん(藻菜子さん)は」隣の坂本未来さん(同)が間髪入れず聞いて。「ねえねえ。あの人が好きなんいるんだよ」。

「え?」佐藤藻菜子さん(同)が驚く。「もうわん(藻菜子さん)は」隣の坂本未来さん(同)が間髪入れず聞いて。「瞬の沈黙の後、どっと笑い声が上がった。

恋愛相談、部活動の悩み、学校のこと...。何でも話せる「仲良し1年3人組」のおしゃべりは底抜けない。

友情育む快適自習室

約束しなくともみんなに会える

初夏の夕刻。ジャージで一人、また一人と山田町長崎4丁目のゾンタハウスを終え、生き生きとした表情が、生き生きとした表情で、ウマく集まる。



被災地コミュニティーの今

ち込む。

広まる評判

「おなかすいた」「パン食べよ」「さあ、それひひと行こ」

ゾンタハウスは「被災地の子どもたちに学習の場」と昨年開所した。

机が並ぶ自習室では、毎日平均20人、多い時には40人の中高生が勉強に打ち込む。

子どもが多く、広いスペースを利用して勉強に集中でき、だいぶ助けられた」と感謝する。

子どもたちが楽しそうに集う理由は、勉強だけではない。

カッカッカターン。宿題にペンを走らせていた渡辺和さん(山田中1年)が手を止め、喜々とした表情を浮かべる。「ねえねえ。あの人が好きなんいるんだよ」。

「え?」佐藤藻菜子さん(同)が驚く。

「もうわん(藻菜子さん)は」隣の坂本未来さん(同)が間髪入れず聞いて。「瞬の沈黙の後、どっと笑い声が上がった。

恋愛相談、部活動の悩み、学校のこと...。何でも話せる「仲良し1年3人組」のおしゃべりは底抜けない。



ースと指導者を備える自習室の評判は「口コミやチラシで、あつといつ間に広まつた。山田中生を中心下校後の勉強部屋として定着した。

同町織笠の仮設住宅で暮らす菅原拓紀君(宮古タグラブ)の義援金ファンドを活用して、昨年9月にNPO法人子ども福徳研究所(本部東京)などが空き家を利用して開設した。中学生以上が対象で利用者は延べ約150人。開所期間は延べ2年間で、日曜日を除き開放している。

さんは坂本さんと同じく佐藤さんとは自習室で初めて知り合った「ゾンタ友」だ。

佐藤さんは「ゾンタに

来たおかげで友達が増えた。ゾンタに来れば約束

しないでもみんなに会え

る。毎日、部活動の後で自習室に行くのがとても楽しみ」と笑顔を見せる。

佐藤さんは「家の方も集

まうんだけれど、集まる

ことそのものが楽しんで

仕方ない。接点がなかっ

た先輩とも仲良くなれ

た」と声を弾ませる。

学級や部活動、学年、出身校を超えた交流が広がる自習室は、子どもたちにとって学校や家庭の隙間を埋める「第3の居場所」だ。

「ゾンタの友達をずっと大切にしたい」と声を弾ませる。渡辺さんは「家の方も集まつたまだ続く。」